



¿QUE TAL?



2024 年 6 月 1 日

ニカラグア共和国 (首都マナグア)

人口 650 万人

面積 九州と北海道くらいの面積

気温 平均 28°C

平均年収 40~100 万(都市)

国民性 とても明るく親切



レオン大聖堂 世界遺産

休日の過ごし方(introducción)

ニカラグアでの生活も 9 か月を迎えました。毎日が仕事と自宅の往復の繰り返しが多くなりなり、以前のように初めて見たり、経験したりする感動も減り、真新しい感動的なことがなくなってきました。ニカラグアの生活に慣れて現地の習慣が徐々に身についているのかもしれません。今回は、週末の休暇の過ごし方を紹介してみたいと思います。

週末は、キッチンを使ってホストマザーに日本料理を作って食べていただいております。おいしいとは言っていただきますが、わかめや海苔は苦手のように、綺麗に端に避けて上手に食べています。作った料理は、日本のシーフードカレー、冷やしうどん、胡麻ドレッシングサラダうどん、エビ入りペペロンチーノ、オムライス、マカロニーサラダ、チキンカレー、デザートアイス、エビラーメン、水菜サラダ、ミートスパゲティー、磯辺焼き、等いろいろ調理をして反応を楽しんでいます。本当においしい時は、“Rico”, “Sabroso” と言ってくれます。調味料は中国食材店でそこそこ買いそろえることができます





土曜日は、毎週 16 : 00 から 2 時間ニカラグア日本大使館でテニスを行っています。気温 30 度以上の炎天下で行っていますが、普段体を動かすことの少ない生活なので、爽快に汗をかいてテニスを楽しんでいます。

民間のテニスクラブもありますが、コートは石のブロックが敷き詰められ、塗装されたコートでした。

また、5 月 11 日にはフランス大使館主催のフットサルサッカー大会があり、ニカラグア、日本、コロンビア、パナマ、コスタリカ、ホンジュラス、スペインなど 14 か国が参加をして国際親善を深めました。日本は、健闘して 4 位になりました



フランス大使館主催 フットサル
中村大使夫妻が応援に来られました

残念ながら、大使館の建物と敷地は防犯の為撮影禁止です

日曜日は、気が向いたときに美味しいコーヒーを飲みに素敵な専門店に行きます。

ニカラグアはコーヒーが特産でもあり、ニカラグアコーヒーを堪能してます。

意外と休日は不便なく色々楽しみ、予定がない時は自宅でゆっくりくつろいでいます。



自宅の庭です

ホンジュラスの旅(actividad)

JICA の任国外旅行制度を使って、隣国のホンジュラスに 3 月 23 日から 4 月 5 日まで行ってきました。

バスで国境を超える体験は大陸ならではの醍醐味で貴重な体験となりましたが、ニカラグアの出国とホンジュラスの入国審査はどちらも意外と厳重さを感じないあっけない手続き環境でした。国境は小さな川 1 つを挟んでわかれており、警備もそれほど厳しくなくこれが国境かと思わせるほど普通の景観でした。

最初の訪問地は、同期隊員のいる国境近くの町、EL Triunfo です。小さな町で隊員は野球指導をおこないつつながら 2028 年のアメリカで行われるオリンピック出場を目指し、ホンジュラスの女子ソフトボールナショナルチームの立ち上げを行っています。

その後、Nacaome、San Lorenzo の太平洋に面した観光町で同じく教員指導を行っている同期隊員を訪ねました。ここではエビの養殖が盛んで、エビや赤貝を現地ビールと一緒においしくいただき、天然温泉にも入って旅の疲れを癒しました。その後、首都の Tegucigalpa を訪問しました。首都は、ホンジュラスで一番危険なところとなっており、一切の歩行が禁止されています。移動はすべて指定タクシーの利用のみとなっており観光をするのが難しい状況です。風景はニカラグアと違って高層ビルやたくさんの住宅が斜面にひしめきあっておりニカラグアに比べ人口の多さを感じました。

そのあと首都を離れて、Danli、Marcala にも同期隊員を訪ねて訪問し、再会の喜びを分かち合いました。

最後は、カリブ海に浮かぶ観光地ロアタン島に行きました。リゾート地だけあって外国人が多くここだけは英語と
ドルが使える別世界にいる感じでした。夢にまで見ていたカリブ海でのスキューバダイビングも体験しました。

こんな贅沢な旅ができるのも、JICA 隊員ならではの特別な経験で、感謝しなければと思います。しっかりとエ
ネルギーも充電できたので、これからの活動にしっかりと向き合っていきたいと思います。



国境の川



ソフトボール女子チーム



天然温泉



仲間と再会



ロアタン島